

平成 29年度 科研費学内奨励金研究計画書

研究課題名	中央アジアにおける古代仏教建築の構成要素に着目した空間構成の分析
研究目的	中央アジアにおける紀元後2世紀から10世紀に使用された古代仏教建築の構成要素に着目し、空間構成の分析・考察を行い、空間構成の類型および抽出される構成要素と地理的・歴史的要因との関係を解明する。空間構成を類型化・体系化することにより、中央アジアの古代仏教建築における空間構成の変遷を明らかにする。また、中央アジアの仏教建築に関するデータベースを構築する。
<p>研究の概要および期待される成果</p> <p>(1)研究概要</p> <p>(2)研究経過</p> <p>(3)研究計画・方法・成果</p> <p>必要経費を含め、当該研究の特色や新規または独創性等を具体的に記入してください。</p>	<p>[研究の概要]</p> <p>中央アジアの古代仏教建築はシルクロードの重要な文化財として近代から現在に至るまで関心が寄せられている。しかし、発掘調査報告書や、その関連資料は言語も多様であり、情報が統合されていないという問題がある。さらに、考古学分野での研究に殆ど限っているため、中央アジアの仏教建築がどんな特徴と類型を持ち、その類型がどういう分布になっているかという建築史的な論考が無い。</p> <p>本研究では、対象建造物に見られる構成要素に着目し、空間構成の分析・考察を行い、空間構成の類型および抽出される構成要素と地理的・歴史的要因との関係を解明する。さらに、空間構成を類型化・体系化することにより、紀元後2世紀から10世紀(仏教興隆期からイスラム勢力による衰退期)を中心に、中央アジアの古代仏教建築における空間構成の変遷を明らかにする。</p> <p>[研究経過・背景など]</p> <p>これまでは中央アジアの古代仏教建築に関するデータベースを構築し、文献により図面・写真で建造物の形態や空間構成を判別できるものを対象として調査を進め、空間構成の分析・考察を行った。概観的に類型化を行い、さらに図式化することで、既往研究では文字情報でしか共有されていなかった仏教建築の類型を可視的な手法で提示した(Selected Papers of the iaSU2016, pp.71-75, 2016.)。また、仏教建築に見られる構成要素に着目し、要素間の相関分析を行い、相関値を評価することで、空間構成を特徴づけた(Proceedings of the 11th ISAIA, pp.986-991, 2016.)。前年度からは調査資料の記述情報も合わせて分析対象とし、構成要素に着目した仏塔の変遷について、フローチャートを用い視覚的な手法で示した(Intercultural Understanding Vol.6, pp.31-43, 2016.)。現在は祠堂の変遷についての研究を進めている。</p> <p>本研究ではさらに、仏教建築として重要な機能の一つである僧院の研究を進めることで、中央アジア古代仏教建築全体を統合化する。</p> <p>[研究計画・方法]</p> <p>前年度から取り組んでいる、中央アジア古代仏教建築、仏教および中央アジアの歴史に関連する資料を収集、整理し、仏教建築の位置情報なども組み込んだデータベースの構築を継続して行う。仏教建築と、古代の道や仏教と関わりの都市遺跡との位置関係も分かるようにする。文献調査により図面・写真・記述から各建築物の構成要素を抽出し、リスト化を行う。その後、統計学的手法を用いて要素に着目した空間構成の分析・考察を行い、空間構成の類型化・体系化を行う。さらに、地理的・歴史的要因を鑑みた考察を行うことで、空間構成の変遷を明らかにする。</p> <p>[期待される成果]</p> <p>中央アジアにおける古代仏教建築のデータベースの構築により、仏教建築に関する情報が統合・整理される。空間構成の特徴が地域・年代別に解明され、各時代、地域ごとの聖なる空間や礼拝対象の扱いについて理解を進めることができ、当時の仏教の姿や他の宗教・文化との関連についての研究にもつなげることができる。構成要素に着目した仏教建築の空間構成の変遷を明らかにすることにより、文化財保存・継承の立場から、復元設計に必要な建築史的知見と位置づけることができる。</p>
研究期間	予算配賦決定通知日 ～ 平成 30 年 2 月 28 日 <small>※H30年3月23日までの期間で設定</small>